

消化器外科に、原発性小腸癌で過去に通院された患者さんまたはご家族の方へ （臨床研究に関する情報公開文書）

北海道がんセンターでは、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた患者さんの過去の記録や保管された検体を用いて行います。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年3月23日 文部科学省・厚生労働省・経済産業省制定、令和4年3月10日一部改正）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。この研究は、北海道がんセンター倫理審査委員会で承認され、当院の院長より実施の許可を得ております。

【研究課題名】

原発性小腸癌に対する集学的治療成績の検討

【研究機関名・長の氏名】

北海道がんセンター 院長 加藤 秀則

【研究代表者名・所属】

北海道がんセンター 消化器外科 医師 岡田尚樹

【共同研究機関名】

なし

【研究の目的】

原発性小腸癌は全悪性腫瘍の0.5%以下、全消化管悪性腫瘍の5%以下とされ稀な疾患です。手術加療が必要となることが多いですが、その希少さゆえに確立した治療法はまだありません。

近年の化学療法および内視鏡手術の進歩は目覚ましく、消化器癌に対する治療戦略に大きな影響を与えており、周術期化学療法による切除範囲の縮小や臓器温存、腫瘍学的治療成績の向上、低侵襲手術による合併症の低下などが期待されています。

当院は都道府県がん診療連携拠点病院として道内における希少癌に対する集学的治療を数多く行っており、当院における治療成績を検討することは非常に重要であると考えます

【研究の方法】

○対象となる患者さん

2003-2022年までの20年間に当院で手術加療を施行した原発性小腸癌の患者さん

○利用する検体・カルテ情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、既往歴、家族歴、生活歴、治療歴、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、病理組織診断、他）後治療、予後、再発状況など

本研究で新たに試料を採取したり使用したりする予定はありません。

○具体的な研究内容

原発性小腸癌における手術療法、化学療法、放射線療法、緩和ケアなどの治療の実地臨床での有効性と安全性を検証し、より良い治療戦略について考察する事を目的とします。治療実施内容と診療情報を集積し、治療結果や有害事象について解析します。診療情報は診療録より収集します。

○研究結果の公表について

本研究の成果は国内外の学会および学術雑誌で発表する予定です。この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

○個人情報の取り扱いについて

研究に利用する検体や情報には個人情報が含まれますが、名前、住所など患者さん個人を直ちに特定できる情報は削除し、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果が発表される場合にもあなたのプライバシーは厳重に保護され、あなたの氏名や病名などが他に知られることは絶対にありません。

[研究実施期間]

2023年6月（倫理審査委員会による実施許可日）～2025年12月31日

*上記の研究に検体・情報を利用することをご了解いただけない場合は2023年12月31日までに以下にご連絡ください。ご連絡がなかった場合、ご了承いただいたものといたします。ご了解されない場合でも不利益を受けることはありません。なお、すでに解析に使用された情報は研究データから情報を削除できない場合がございますので、ご了承ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道がんセンター 消化器外科

担当医師： 岡田尚樹

住所：〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3番54号

電話：011-811-9111

FAX：011-832-0652